

第1章 黒石市の現況

第1章 黒石市の現況

1. 黒石市の都市形成

(1) 広域的立地

黒石市は青森県中央部に位置し、南東は平川市、西は田舎館村、北は県庁所在地である青森市に隣接する。東西に23.3km、南北に17.5kmで面積は216.96km²（平成19年10月1日現在）となっている。

広 ぼう (最長部分の距離)	東西 23.3km
	南北 17.5km
東 経	東端 140° 50 55
	西端 140° 34 6
北 緯	南端 40° 31 56
	北端 40° 41 22
総面積	216.96km ²
	(平成19年10月1日現在)



図 1-1-1 黒石市の位置

(2) 黒石市の構造（自然、市街地、地形）

気候は日本海型気候に属し、三方が山に囲まれた盆地形の気象である。年間平均気温は9.9、冬季は偏西風が強く寒冷で、特別豪雪地帯に指定されている。

地形は、北西から南東を長軸としたひょうたん状で、総面積の約8割を占める東部の山岳地帯は八甲田連峰に連なり、西部の平坦部は津軽平野の一部をなしている。

主な河川は、一級河川・浅瀬石川が市街地南部を流れているほか、その支流として中野川、青荷川、二庄内川がある。

東北自動車道が市街地東部を縦貫し、東西には県土を横断する国道102号、394号が整備されている。また、本市と弘前市とを結ぶ弘南鉄道が公共交通機関として整備されている。

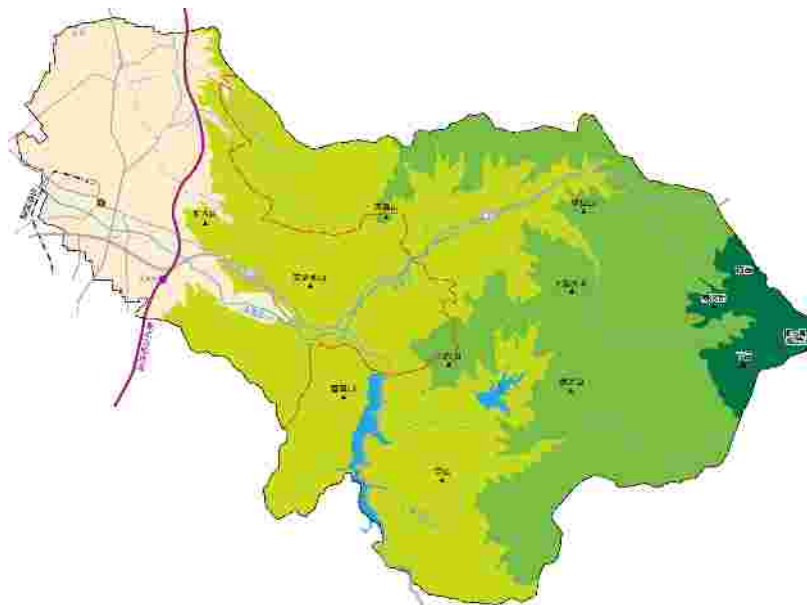


図 1-1-2 黒石市の都市構造

(3) 歴史の変遷

市名の文献上の初見は、鎌倉室町期の領主であった工藤貞行妻「しれん」の興国4年(1343)6月20日の議状にみられる「久ろいし」である。昔、蝦夷(えぞ)の住むところが久慈須(くじす)、国栖(くにす)などと呼ばれており、「くろいし」は、これが転訛したものとされる。

明暦2年(1656)、津軽信英は弘前藩主津軽信義の急死により幕府から津軽信政の後見役に命じられ、この時に弘前藩から5千石を分知されて黒石津軽家を創立した。すでに町の様子をなしていた黒石に陣屋を築造すると同様に、侍町や職人町と商人町を加え町割を行った。「こみせ」はこのときに作られたといわれる。文化6年(1809)8代領主親足のときに黒石津軽家の1万石大名昇進が決定し、黒石藩が誕生した。

明治時代になり、廃藩置県を経て、郡役所がおかれ黒石町となった。黒石町は、政治・経済・文化の面で南津軽郡の中心的な役割を果たした。

昭和29年(1954)7月1日、黒石町、浅瀬石村、山形村、六郷村、中郷村が合併して黒石市が誕生した。その後は、昭和31年(1956)に尾上町の一部が編入し、現在に至っている。

表 1-1-1 近年の黒石市のあゆみ

年号	和暦(西暦)	月日	できごと
昭和	29年(1954)	7月1日	市制施行(人口39,044人、面積213.40km ²)、県内4番目の市として誕生
	31年(1956)	10月1日	尾上町の一部を編入合併
		11月1日	市立黒石病院発足
	33年(1958)	9月10日	黒石温泉郷が県立自然公園に
	38年(1963)	1月21日	上水道の給水を開始
	41年(1967)	4月1日	岩手県宮古市姉妹都市締結
	43年(1968)	12月28日	市庁舎、中央公民館落成
	46年(1971)	10月5日	ウェナッチ市姉妹都市締結
	51年(1976)	4月15日	市勤労青少年ホーム開館
	52年(1977)	5月1日	市中央スポーツ館開館
	54年(1979)	5月12日	秋田雨雀記念館開館
		9月27日	東北自動車道 青森～大鰐弘前インター間開通
	57年(1982)	10月14日	市民文化会館、黒石公民館落成
	59年(1984)	7月1日	市民憲章制定
		8月17日	永川(ヨンチョン)市姉妹都市締結
		10月31日	国鉄黒石線廃止
	61年(1986)	7月19日	弘南黒石線の民営化
			国道102号バイパス全線開通
	63年(1988)	4月15日	津軽こけし館オープン
10月19日		浅瀬石川ダム完成	
平成	4年(1992)	4月8日	市バイオ技術センターオープン
	6年(1994)	10月1日	市の花『りんごの花』、木『もみじ』、鳥『セグロセキレイ』に指定
		11月24日	新黒石郵便局開局
	8年(1996)	4月1日	スポカルイン黒石開館、宮古市との姉妹都市締結30周年
	12年(2000)	4月21日	津軽伝承工芸館オープン
		10月13日	国道102号と394号バイパス開通
	13年(2001)	3月16日	市「新長期総合プラン」を策定
	16年(2004)	7月1日	市制施行50周年記念式典
11月5日		国道102号弘前黒石工連絡道路完成 宮古市との姉妹都市締結40周年	

(4) 都市計画の成り立ち

黒石市の都市計画区域は、昭和28年に当初決定が行われ、その後2回変更されている。用途地域の指定は、昭和42年に行われている。昭和54年には公共下水道、平成2年には土地区画整理事業が決定している。

表 1-1-2 都市計画の変遷

西暦	年次 邦暦	人口及び 行政区域面積		都市計画	都市開発の動き	都市開発に伴う動向	上位計画等
		人	km ²				
1953	昭和28年	-	-	都市計画区域当初決定			
1954	昭和29年	-	-	市制施行			
1967	昭和42年	-	-	都市計画区域 第1回変更			
				用途地域当初決定			
				準防火区域当初決定			
1969	昭和44年	-	-	防火区域当初決定			
				準防火区域 第1回変更			
1973	昭和48年	-	-	用途地域 第1回変更			
1975	昭和50年	-	-	都市計画区域 第2回変更			
1977	昭和52年	-	-		北地区工業団地造成		
1979	昭和54年	-	-	公共下水道の決定	東北自動車道青森～大鱈弘前インター間開通		
1980	昭和55年	40,755	216.32		ちとせ団地造成		
1982	昭和57年	-	-	用途地域 第2回変更	市民文化会館・黒石公民館の落成		
1990	平成2年	39,213	216.96	土地区画整理事業決定		第3セクター「黒石1街区」開発(株)発足	
1992	平成4年	-	-	公共下水道事業 第1回の変更			第3次総合開発計画基本計画策定
1993	平成5年	-	-	用途地域 第3回変更			
				公共下水道事業 第2回変更			
				準防火区域 第2回変更			
1995	平成7年	39,004	216.96	用途地域の決定	国道394号城ヶ倉大橋開通		
				準防火区域 第3回変更			
1996	平成8年	-	-		スポカレイン黒石オープン		
1998	平成10年	-	-	公共下水道事業 第3回変更			
1999	平成11年	-	-				黒石市中心市街地活性化基本計画
2000	平成12年	39,059	216.96		津軽伝承工芸館オープン		
2001	平成13年	-	-				黒石市新長期総合プラン
2005	平成17年	38,455	216.96	中町伝統的建物群保存地区決定			H16青森県マスタープラン策定

出典 黒石市都市計画基礎調査 平成20年3月

人口および行政区域面積は国勢調査実施年次のみ掲載